

Title	安武誠子の戦後熊本・東京日記：1947年1月1日～11月21日
Sub Title	安武誠子の戦后熊本、東京日記：1947年1月1日-1947年11月21日 Nobuko Yasutake's post-war Kumamoto and Tokyo diaries : January 1 to November 21, 1947
Author	安武, 誠子(Yasutake, Nobuko) 大石, 茜(Ōishi, Akane) 甲賀, 真広(Kōga, Masahiro) 加藤, 春千代(Katō, Haruchiyo)
Publisher	「満洲の記憶」研究会
Publication year	2024
Jtitle	満洲の記憶 No.10 (2024. 12) ,p.114- 143
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32003001-20241200-0114

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

安武誠子の戦後熊本・東京日記

—1947 年 1 月 1 日～ 11 月 21 日—

執筆：安武誠子

編集：大石茜、甲賀真広、加藤春千代

凡例

- ・以下には安武誠子の 1947 年の日記を収録する。
- ・日記の記載のない日付は掲載していない。この年の日記は 11 月 21 日を最後に書かれていないため、掲載した日記の期間は 1 月 1 日から 11 月 21 日となっている。
- ・日記の旧字体や異字体は常用漢字に変換し、漢数字は算用数字に改めた。
- ・旧仮名遣いは原本通り掲載した。また読みやすさを考慮し、句読点を付した。
- ・日記は安武誠子のご子息加藤春千代氏が翻刻し、編集を担当した大石と甲賀が原本と照合し確認作業を行い、語彙注釈をつけた。
- ・語彙注釈の作成にあたって、下記の文献や資料を参照した。また家族や親戚、友人関係については、加藤春千代氏の証言をもとに作成した。

- 熊本日日新聞（1946年1月1日～1947年12月31日）。
- 佐藤仁史、菅野智博、大石茜、湯川真樹江、森巧、甲賀真広『崩壊と復興の時代―戦後満洲日本人日記集―』東方書店、2022年。
- 尚綱大学所蔵尚綱女学校同窓会資料（同窓会会員名簿及び同窓会誌『尚綱』等）。
- 安武誠子、菅野智博、甲賀真広、西井麻里奈、加藤春千代「満洲日報社・安武誠子の戦後熊本日記―1946年8月6日～12月7日―」『満洲の記憶』9号、2023年。

本文

1月1日（水）午前 雨・午後 曇

未明に起きて雑煮の支度をする。夜来の雨止まず。春千代と2人でささやかな祝膳につく。屠蘇も田作も煮豆もない侘しさ。（晶坊もつひに来らず）午後どうやら雨が上がったらしいので春坊と菊池へ向ふ。高江下車。ぬかるみをついて夕方高永着。義姉¹にあいさつし、お餅を頂いて、月夜の道を伊萩へかへる²。

1月2日（木）

夫は午後から熊本へ行くとて、午前中、伊萩・岩本へ廻礼。春坊をつれて午

1 柳條の兄、安武萱夫の妻・律である。萱夫は早くに亡くなり、娘の和子と2人で暮らしていたが、和子は前年に亡くなった。

2 1946年8月、引揚げてきた誠子一家は、伊萩にある安武凡夫宅の土蔵を借りて住んでいた。1946年10月31日、熊本パック社から給料をもらうと、誠子と子どもたちは、熊本市内に引っ越すが、柳條は伊萩に滞在することが多かった。熊本市内では、女学校時代の友人である高浜貞子の世話で、高浜家の隣家を借りることとなった。

頃から伊萩と岩本の墓参をすまし、岩本のあちこちへお目出度うと云って、夕方伊萩へかへる。清次さん³とこで大へん御馳走になった。明日熊本へかへるので春子⁴を誘ったら、是非つれて行ってくれといふ。やす子さん⁵も誘ふやうにすすめたがどうかしら…

1月3日（金）

午前中は次々とお客さんで何する隙もない。午ごろ春子と、実家の上隣のつる枝さん（熊本の日華ゴム社に勤めてゐるといふ）がやって来たので軽い食事をすまして隈府に向ふ。3人とも健脚なので割に早く隈府へついた。荒木宅⁶に立寄り3時52分発なので熊本へかへる。春子さんたちも泊る。

1月4日（土）

御用始めなので朝、春子・つる枝兩人を同道。2人を美容院へ案内したそのひまに、社へ顔を出す。少しおそかったので、谷田さんも竹森・徳永氏⁷等も見えず。午後春子等を第一劇場「感謝の街」につれて行く。つる枝さんは春日の会社へかへった。夜、高浜氏宅⁸に招かれておそくまでみんなで遊ぶ。

1月5日（日） 雨

はじめての日曜日なので礼拝に出たいと思ったが、雨でだめ。午すぎつる枝さんが来たので、春子は一しよに春日へ行った。明日岩本へかへるといふ。

3 岩根清次。誠子の実家の隣人で幼馴染。旭野小学校校長を務めた。

4 春子は安武家の遠縁の親戚。満洲で一時期一緒に暮らしていた。（佐藤仁史ほか前掲書、348頁。）

5 春子の友人。当時安武一家と同様に職を探していた。

6 六間町の荒木弁護士のこと。荒木弁護士の娘、啓子を『熊本バック』1947年新年号で取材している（『熊本バック』1947年新年号、12頁）。

7 竹森は『熊本バック』の主筆（1946年9月30日の日記より）。徳永や谷田は、1946年に誠子と共に『熊本バック』の取材や執筆に関わっていた。

8 高浜貞子の家。女学校時代の親友。

1月6日（月）

午前中出勤、別に仕事なし。午後から七草摘みをかねて、貞子さん⁹と島崎¹⁰へ年賀に行く。かへりに純ちゃんも誘ひ、井芹川のほとりで摘草する。ゴギヤウは稀、小さいのを1本とった。

1月7日（火）

芹、なづな、ごぎやう、はこべ、ほとけの坐、すゝ菜、すゝしろ、それに人参、牛蒡、里芋も少し加へて賑やかな七草雑炊だが、夫と2人で寂しかった。事務所へ顔だけ出したが、別に仕事にならず。

1月12日（日）

宮原さん¹¹宅から鏡開きの御馳走に招待されているが、礼拝に行きたいので、貞子さんにことはって大江に行く。思ひがけず婦人会からオーバ、ブラウス、ワンピース、スープの素、化粧石けん等を頂く。礼拝がすんですぐ宮原氏宅へ行くと、谷山、高浜、菊池さんたちが待ってゐた¹²。いろいろ御馳走になり歓談して4時過おいとま。

1月17日（金）

「熊本パック」を、早く救済会から分離独立したいと、竹森氏や徳永氏と協議。午後、パック社のための「家」を見に行く。安巳橋デパートの一部で、近く大通りになるといふ。金がないので、契約は出来なかったが大体の約束だけでかへる。

9 注8の高浜貞子。

10 島崎校。1946年秋に、誠子は『熊本パック』の取材で何度も島崎校を訪ねている。

11 宮原晴子。尚綱女学校の同級生。

12 谷山翠、高浜貞子、菊池千代。尚綱高等女学校の同級生たち。

1月18日（土）

竹森さんが熊本駅前の音羽屋と、呉服町学生寮の集金をして貰いたいとのこと。社に出るのを止めて朝からそちらへ廻ったが、音羽屋は50部のうち5部しか売れてゐない。売れないといふよりどうも誠意がない。午すぎ帰宅。夫と坊は伊萩へ行ったので、文坊と島崎へ行き、夕はんを頂いてかへつてみると、李季さん¹³が来てゐた。

1月19日（日）

李季さんは山の用事で、いそぎ旭野へ行くので、広町まで見送り、礼拝に参列。英文の新約1冊（300）求める。帰宅したら、つる枝さんがお友だちをつれて来てゐた。葱1把貰ったが、250円也の借金申込には呆れた。7時ごろ夫と春坊とつれ立つてかへつて来た。おなかがすいてゐる様子。李季氏は伊萩。

1月20日（月）

今日、救済会に辞職願を出すといふ相談が出来てゐたのに、竹森さんたちが来てゐない。仕方がないので町をブラブラして雑誌を少し売る。委託販売所へオーバを、1,300の札であづける。かへりに薪1把（ソダなり）6円で買った。

1月21日（火）

竹森、徳永氏等顔を出さず、パック社の資金が不調になったのではないか。通町筋をブラブラして午ごろ帰宅。パック社へ出て何にもならぬし、社は、明後日からやるといふ相撲大会の事務所になってゐるし、落着けない。

1月22日（水）

今日も竹森氏は休み、徳永さんはやって来た。例の金策が出来ないらしい。

13 夫・柳條の妹である藤田李季子。藤田家は安東に本社をおく藤田商会の経営者で、戦後は鹿児島県河内市に引揚げていた。

「家」も契約が出来ないし、(2月号)も出せないし、社長はサラリーを出さぬといふし、何にしても困ったものだ。雑誌を数部売っただけでかへる。

1月23日(木)

終日雨。欠勤して、ひねもすつくろひものをする。靴下2足、春坊と文坊のズボン。先日アメリカの婦人から貰った外套の手入れを半分ばかりしたのが、今日一日の仕事だった。夜になっても、なかなか雨が止まない。

1月24日(金) 春千代の誕生日 晴れ、暖かし

朝出社。竹森、徳永氏来らず。社長に、2級酒1本250円で買って貰ふ。(これ、配給で30円の品なり) 午後、雑誌をすこし売り、水前寺へ向ふ。菊池氏を見舞ひ、宇野静子、甲斐画伯宅¹⁴をたづねて、夕方かへる。誕生の祝はライスカレー。ノートを1冊プレゼントす。

1月25日(土)

10時頃出社。誰も来てみないので、すぐ外出。上通町を軒並みに、新年号19部売りあげた。城先生も1部買って下さった。これで雑誌売りもすみホツとした。かへりに生干鰯とタクアンを買ってかへる。午後は、子等の相手をしながら、つくろひもの等にすごす。夫は、午後から菊池へ行く。例の官林払下げも、いよいよ許可になったらしい。

1月26日(日)

今日はクラスメート6人で、西里の堤さん¹⁵をたづねる約束だったが、目がさめたら雨、ガッカリして朝寝する。おそく御飯をたべてみると、原元君が

14 『熊本バック』1947年新年号で、甲斐画伯の娘、波奈子を取材している(前掲『熊本バック』12頁)。

15 堤静。尚綱女学校の同級生。

やってきた。10時半頃みどりさん¹⁶がやってきたので、春千代等に3人分の弁当をつくってやり、みどりさんと貞子さんと3人で西里へ向ふ。この前のやうにひどいぬかるみなので線路伝ひに行く。橋が少し気味がわるい。零時半頃お寺につき、まん寿やごはんを御馳走になり、いつもの百姓家でサツマ芋2貫(20円)大根等を仕入れてかへる。途中、芹と水前寺菜を摘む。家へかへったのは黄昏。いもじる粉をつくる。終電車で夫かへる。

1月27日(月) 早晩少し雪ふる

朝、事務所へ顔を出したが、バックの同人は誰も出てゐない。永島社長¹⁷とサラリーのことでも一寸言い争ってから、宮原さんをたづね、昨日の獲物の芹を分けてあげる。お午から貞子さんとみどり幼稚園の聯合婦人会に出席して、5時頃帰宅。

1月28日(火)

起きて見ると、又雪が降ってゐて、ひどい寒さ。10時すぎから裁判所に佐藤判事¹⁸をたづね、1月分の残りの米を買ってかへる。1時頃出社、すぐ加地さん宅の三年坂教会婦人会¹⁹に出席、千田尾牧師から新約聖書を貸して頂き、5時ごろかへる。

1月29日(水) 晴

午前中出社。まだ誰も来てゐない。午後、西里の手前まで芹つみに行き、芹と河がらし(水前寺菜)をたくさんとって泥んこになってかへる。ひどく疲れてしまった。

16 谷山翠。尚綱女学校同級生。

17 永島始。熊本バック社の社長であり、熊本県海外引揚者罹災者救済会長でもある。

18 誠子の長兄である故・山口豊稲の息子、朔朗が問題を起こし、裁判沙汰になった。
1946年10月7日の公判において、裁判長を務めたのが佐藤判事だった。

19 1946年12月6日にも、三坂婦人会クリスマス集会に参加している。

1月30日（木） 曇

寒い。曇ってゐる。早目にひる飯をすまし芹売りに出かける。上通から下通りを歩き、辛島町附近に立ってみたが、なかなか売れず。風が冷く、すっかり冷え切ってかへる。売上で牛馬の臓物を少し買っにかへる。

1月31日（金） 晴

朝のうち、芹売りに歩いたが、サッパリ売れぬのであきらめて、残りは築山、千田尾²⁰、市川、川瀬、加藤氏等にあげ、午後4時頃の電車で菊池へ行く。高江へ着いたのは6時、うすぐらい道を高永へ行き律子嫂さんの家に泊る。

2月1日（土） 雪

朝早く、和子さんのお墓にまいり²¹、伊萩へ急ぐ。8時半頃かへったら、出口翁が来てお母さんと朝ご飯のところ。夫から頼まれた母上の扶養証明書、金融通帳等受けるため、小組長、区長等、郵便局、役場等をかけまはり実家に寄って4時頃かへると、丁度夫と子供達が帰って来た。

2月2日（日） 雪

朝から夫と文緒と3人で大谷の開墾地を見に行く。小川から丘を越へ谷を越へて大へんなところ。杉と檜の植林を伐り開くのだそう。かへりは、旭野国営牧野へまはり、薪を少しかついでかへる。2時すぎから、子供と熊本へ。ワイフで久しぶりに泰吉さんに会ふ。隈府で夫を待受けるつもりだったが、あまり風が冷たい上に時々雪がチラつくので5時12分ので、先にかへる。電車は定時に順調に動いたが、窓ガラスが割れてひどい寒さだ。かへって子等をやすませたら、終電車で夫がかへって来た。

20 恩師の築山八千代先生と千田尾牧師。

21 1946年10月2日の日記に「和子さんの思いもかけぬ死を聞き、律師さんの心が傷ましくて慰めの言葉も無い。」とある（『満洲の記憶』9号、2023年、17頁）。和子は、前述の安武萱夫と律の娘で、敗戦時には哈爾濱の女学校の教師だった。注1参照。

2月3日（月）

今日もひどい寒さだ。夫と子等を送り出して洗濯をすまし、事務所へ出る。バックは誰も出てゐない。午すぎ帰宅、つくろひものなどする。夜はおいも。夫がオバを買って来た。葱や水前寺菜とヌタにして美味しかった。

2月4日（火）

水道凍る。炊事場は割に楽にとけたが、洗面所は午近くなってやっと出た。（蛇口を暖炉であぶる） 先日来、大谷の開墾のことでクサクサして、出勤する気にもならず。米を取ってきただけで、終日ブラブラしてすごす。夜、オデンを作る。ひどい寒さだ。

2月5日（水）

春立つといふに今朝もひどい冷え方だ。水道の凍り方もひどい。お午まで水道の世話と救済会への辞職願、九州婦人新聞へ履歴書をかいて、お午から事務所と加藤氏宅²²へ行く。夜、厚生省へ出すため、罫半紙へ履歴書を墨書する。高浜氏は今日から京都へ出展の由。

2月6日（木）

午後、昨夜書いた履歴書を持って、県庁に紫藤氏を訪問したが、会議中なので、向かひの席の人に頼んで辞去、島崎へまはる。みどりさんは西里へ行って留守。すみちゃんと暫く話をして、かへりに井芹川附近で摘草してかへる。思ひがけず、菜をたくさんひろった。

2月7日（金）

午前中は家の仕事、洗濯等。午後、貞子さんと島崎へ行き、翠さんと3人で

22 1946年10月8日の日記にある美髪学校の加藤氏と思われる（『満洲の記憶』9号、19頁）。

岡崎（旧古庄）きよさん²³の子息の葬儀に行く。陸軍少佐、ルソン島に散華ときく。独りボッチになったおきよさん可哀そう。島崎へ寄り、醤油を買ってかへる。

2月8日（土）

大谷官林開墾のことで一度遠山先生の御意見も伺ひたいと、大江に行き、かへりに紫藤さんのお宅による。おるす、お母さんとお話してかへる。夫は午後から菊池行き。敦子さんが、明朝の汽車で国立の学校へかへるそうなので、切干、雑草、ソバ粉等をかき集め、熊本パック1部を一緒にしてことづける。

2月9日（日）

敦子さんは早朝、貞子さんに見送られて出発。教会の礼拝に出たら信徒会の結成等について話が出た。千田尾さんから新約聖書を頂く。かへって見ると、留守中に竹森さんが来られたとのこと、残念。午後、2児と本妙寺に参り、裏山で薪をとってかへる。夜は、ダンゴ汁。夫、終電車でかへる。信徒会の結成式は16日1時半、例会は毎月第3日曜日の午後といふ。3月15、6日頃、賀川氏来熊伝道の予定とあり。「熊本パック」未だ結着を見ず、困ったものだ。

2月10日（月）

午前中は裁縫（つくろひもの）。午後、宮原さん来訪。貞子さんと3人で尚綱校の寄付の相談等する。髪を染めた。万両だが、とてもよく染まった。夫は午後から、菊池へ行くといふので、金策のため、リキさん²⁴から貰った羽織を出してやったが、菊池行きは延期。お洗濯、掃除、薯干し等をしてゐたらお午になった。大いそぎ食事をすまして、緒方、鬼木、菊池、岩永、宇野、

23 尚綱女学校の同級生。

24 注13と同じく李季子のこと。

井上²⁵と6軒かけまはる。例の寄付金やバザー等の連絡のため。夜はおいも、やっと3人がねたので杵下修繕を始めたら、論吉さん²⁶と大山さんが来られた。

2月11日（火） 曇

夫は朝から菊池へ行くと出て出る。2児は学校の式（午前9時）へ。掃除、洗濯等してみると、雹が降り出した。午後、子等の相手をし乍ら、晶之介と姉上へ久々に便りする。紀元節で、国旗の掲揚が許されたといふが、殆ど出てゐない。夜、高浜さんで遊ぶ。夫、終電車でかへる。

2月13日（木）

大人数だし、釜は洩るし、御飯を2鍋、お汁、弁当のおかずを作るので大変だった。論吉さん方にお握り3つつつ作ってあげる。やっと送り出して、貞子さんと雑談してみたら、内村日出夫君来訪。是非一しょに来てくれといふ。強引に引ばられて水道町のハルビン引揚者援護会へ行ったら、婦人新聞発刊の相談を受けた。

2月14日（金）

昨日から降りつづけの雨で、いんき臭い。つくろひものなどしてみると、午後、やっと雨が止んだので、貞子さんと、巡因寺（傳教さん²⁷の寺）と三好みよさん²⁸の家に、連絡に行く。（傳さんは風邪で会へず）杵下修繕等に遅くまで起きてみたが、手が冷たくてサッパリ能率上らず。

25 緒方雪子、鬼木天津（てつ）、菊池千代、岩永松子、宇野しづ、井上しか。尚綱女学校の同級生たち。

26 柳條の妹・李季子の夫である藤田論吉。

27 尚綱女学校の同級生。

28 同上。

2月15日（土）

春千代、映画見学（50円）。文化映画（水鳥の生活）ニュース、影絵物語（竹取物語）等がある由。きびしい寒さ。雪がチラついてゐるが、夫は菊池行き。加藤氏、宮原さん宅、委託販売店をまはって、3時すぎ帰宅。子等とコタツで仕事し乍らしばらく遊ぶ。

2月16日（日） 寒し、風あり

礼拝に出たいと思ったが、午後の信徒会に、貞子さんが一緒に行かうと言ふので、礼拝をやめる。本妙寺山に薪拾ひに行きたいが、あまり寒いので城の堀で杉の枝など拾ってかへる。午後、貞子さんと信徒大会へ出る。県知事、市長等の祝辞もあったが、どれも慣れてゐるといふだけで、至極お座なりだ。4時すぎ帰宅。小袖だんご汁を作つてやる。8時すぎ、夫帰宅。おふろが立つたので、夫もあたたまってよかった。子供たちは朝湯に行ったのでやめる。

2月17日（月）

文緒、映画会で早く登校。今日も大分寒いが、風は大体おさまったので、貞子さんと、西里の堤さんを訪問。庭の紅梅が五分咲きのところ。尚綱校のバザーや寄附の相談をしたりして、おひるを御馳走になり、大根、ホーレン草等を頂いて、2時半頃いとましてかへる。

2月18日（火）

昨日の疲れと寒さとで、午前中はおこたの中でブラブラしたが、午後、勇気を出して畑の手入れにかかる。門へ出る角のゴミ（堆肥のやうになってゐる）をサラへて防空壕の一部を埋め、拡張した畑に、カツヲ菜を植ゑた。全体ザツと草取りをしたのでサツパリする。お夕はんは、ふろふき、いもの代用食、パンを少し焼く。

2月19日（水） 曇

数日來の酷寒は、今朝、大分やはらいだが、未だ曇ってゐる。高永の嫂さん²⁹に頼んだ木炭（4貫俵2つ）が農業会の倉庫に来てゐるとのことなので、朝から午すぎまで、あちこちあたって見たが、サッパリわからぬ。かへりに宮原さんに寄り、ラードを頂いてかへる。夜は、久しぶりにとろろ、美味しかった。

2月20日（木）

文緒の父兄会があるので、午前中は、夕飯の下拵へをしたり、薪を割ったりする。相変わらずの寒さ。粉雪がチラついてゐるが、11時過ぎ家を出て城内を通り、県庁へ行く。紫藤氏と暫くお話しして、1時、学校へ。1時間、授業参観。校長のお話、平野先生と懇談して、4時過ぎかへる。

2月21日（金）

文緒発熱（37.8）風邪気味なので欠席させ、終日そばで、つくろひもなどする。寒さも幾分うすらいだやうだが、曇って風も相当ある。私も扁桃腺が少し腫れたやうだ。味噌、12月分の配給あり、3人分（360 g）6円48銭。

2月22日（土）

文緒、未だ少し熱があるので休ませる。お午頃から起きて、何やら地図見たいなものなど書いてゐる。「月のもの」が又始まったので、少し気持ちがわるいけれど、薪がないので、午後からお城の濠に出かけ、リュックーぱいってかへる。夫と春千代は菊池へ……。

2月23日（日） 尚綱校学藝会（公開）

文緒と2人なので、さびしい朝餉。文緒の好きなカレーをつくってやる。お

29 注1と同じく律子のこと。

ひるににしめ。10 時頃から、貞子さんと文坊と 3 人で尚綱校へ出かける。おひる時に、食堂の手傳でてんてこ舞。4 時頃まで手傳ってかへる。春坊たちを迎へるため、お汁粉をつくる。春坊たち、終電車がおくれて、11 時頃かへる。

学芸会は、メーテルリンク作の劇「青い鳥」、独唱「シューベルトの子守歌」、モツアルトの「セレナード」、ダンス、日本舞踊と、4 つだけ見て、午後は、すっかり食堂で立ちつづけたが、手傳の人も大い学藝会へばかり行ってしまうので、ずい分忙しかった。お汁粉 5 円、ケーキと紅茶 10 円、全部で、5、6000 円の売上にはなったらしい。

2 月 24 日（月） 晴

朝、みどりさんが西里へ行かうと誘ひに来たが止める。お午から、バザーに出すヘアネットのゴムをさがしに街へ出て、かへりに宮原さんとこから、豆タンをゆづって貰ふ。28 円 70 銭といふが、いくつもない。1 ケ 15 銭位にあたるわけ。ネットにゴムを入れる。

2 月 25 日（火）

昨日の作業のつづき。ネットの破れたのがあって、修繕に困る。午までに、特大 20、並 10 ケ、マゲ用 10 ケを整理して、尚綱校へ持って行く。暫く永田先生³⁰とお話して、原価を頂く、永田先生から小遣い 50 頂いて恐縮した。かへりに宮原さんに寄る。「ああたかし」国通・宮崎司氏に会ふ。

2 月 26 日（水） 晴、暖

春坊、文坊、学校がお休みなので、10 時頃から一しょに本妙寺へ出かける。2 人が宝物館を見る間に、山で枯枝等を拾ふ。櫟の丸太を 1 本発見、頑張つて持ちかへる。午後、輸入米の配給 2 時間ばかり立ちん坊。夕方、炭大半俵

30 永田喜久。尚綱女学校の恩師。

(33 円) 配給あり。菊池の炭とどく。

2月27日(木) うす曇

手袋を洗ったり、庭いぢりをしたり、下駄の緒作りをして、午前中をつぶす。
何だか憂鬱なうそ寒い日だ。貞子さんに家賃20円、電灯料19キロ10,20払ふ。

2月28日(金)

醤油配給(12月分、6合)。京町、植木市。

3月1日(土) バザー

9時半頃から貞子さんと尚綱校のバザーのお手傳に出かける。食堂は若い卒業生や研究科生で人手がある様子。売場へ行つて手傳ふ。宮原さんは下駄、井上しかさんは下駄の緒を出品してゐる。頭が痛いので、3時頃失礼して、貞子さんと鬼木さんに会つてかへる。夫は例により菊池行。

3月2日(日) 尚綱校バザー

第2日だが頭が重いし、子供たちも熊日の「近郊めぐり」に一緒に行かうといふので、そちらにきめる。

お弁当、水筒、焼もち、みかんとノート携帯。9時半、本妙寺仁王門下に集合してゐると、青木寛君に出会ふ。東京に出てゐる由。10時出発。本妙寺山の裏手を半周して、荒尾山の中腹に出る。大分高いが、沿道は今盛んに伐採開墾中である。地味は痩せてゐるやうだし、ひどい傾斜地から恐らく果樹園にでもするのだらう。峠の茶屋で小憩、昼食となる。三賢堂に寄り、聴耕園、百梅園を見て、石神社前で解散。谷山宅に寄り、つみ草し乍らかへる。風ひどくなつて来た。

3月3日(月) 曇

お節句といふのにきびしい寒さ、大寒に逆戻りした感じだ。お掃除、洗濯、

それに昨日採った野菜の整理などしてゐたら午になった。「路傍の石」を読みながらコタツに入って、久しぶりにいい気持ちになる。3時すぎから、米をとりに行く。23 疋余、ちょっと重かった。夜、高浜さん宅に、おひな様見に行く。

3月4日（火） 晴

昨夜は雲が多かったが、拭ったようなお天気。

3月5日（水）

誠子風邪気味。家居して裁縫をする。

3月6日（木）

誠子風邪気味。

3月9日（日）

夫、例によって菊池行。文緒風邪気味。

3月10日（月）

2年前まで華やかだった陸軍記念日を思ふ。夫のかへりなし。

3月11日（火） 坂崎さん結婚の日

午後、春千代の父兄会に行き、6・3・3新学制についてきく。かへりに、宮原さんによったら、寝て居た。夫、帰らず、多分。山ごもりなるか。

3月12日（水） 坂崎さんの御披露

独りで西里へ行き、堤さんに、おいものかゆとお茶漬けを御馳走になり、薯1貫5百匁位貰ふ。野菜は手に入らず。夕方、夫かへる。夜、坂崎さんに招かれる。（高浜氏宅にて）

3月13日（木） 尚綱校同窓会

10時といふけれど、いろいろ用事をしてみたら10時半ごろになった。貞子さんの羽織と帯を借りて、2人で手弁当で出かける。恰度ミラー夫人の講演のところ。同級会は誰も来てゐない。昇降で弁当をしたためる。午後、会員の談話、余興、4時すぎかへる。

3月14日（金）

停電で何も出来ず。早くやすむ。

3月15日（土）

夫、菊池行きといふのに、朝又霧雨降る。春千代、文緒、水前寺遠足。海苔巻といもの団子をつくってやる。11時頃から、霧雨について本妙寺山へ、落葉拾いに行く。だれもみない静かな山。本妙寺本堂で雨宿りしてかへる。文緒、咳ひどし。停電、まっくら。

3月16日（日）

午前中は祖氏やらふろ焼きでつぶす。久しぶりに昼風呂でサッパリした。午後、文坊と島崎へ行き、先年翠さんにあげたペンテックスの羽織と下駄の緒を貰ふ。かへりに摘草をする。文坊は汽車で大よろこび。夜、夫、終電車がかへる。ふろがあってよかった。

3月27日（木）

春千代、午後から予行演習。先生へのおみやげに御馳走をつくる。

3月28日（金） 文緒修了式、春千代卒業式

午後、春千代卒業式。

3月29日（土）

夫、菊池へ。朝、赤い御飯で、春千代の卒業を祝ふ。10時、修了式、引きつづき会食、余興あり（「雪と風」）。かへりに、真崎先生宅にまはり、手製のワップルをあげ、白川のほとりを歩いてかへる。

3月30日（日）

春千代は、早朝、袋へ塩買ひに。文緒は、夫の命で独り菊池へ行くので、広町まで見送る。礼拝へ行き、尚綱校、宮原氏宅、志村ヤス氏宅に寄り、夕方かへる。夜、夫ト春千代、疲れてかへる。

3月31日（月）

春千代、朝の電車で菊池へ行く。いよいよさびし。何もかも独りぎめにする夫の勝手さ不快なり。わりきれぬ気持。

4月1日（火）

子等のみないわびしさ。

4月2日（水）

さびしい日。

4月3日（木） 神武天皇祭

夫は、早朝、菊池へ。夕方、ひとりでかへる。

4月4日（金）

保健所へ行く。

4月5日（土） 選挙（知事、市長）

貞子さんの身代わりで、投票場（熊国校）へ行く。かへりに、傳さん、永田

先生、大塩さん、新田さんをまはる。新田さんより、100 頂く。夫は、朝から菊池行き。選挙。(硬球)

4月6日(日)

イースター(礼拝)、直ぐかへる。午後、裁縫。3時すぎ、夫、母、2児来る。久しぶりに賑かな夕はん。文緒、旭野への転校の件で、夫の計画をもらし、不満を訴へたのをキッカケに、夫と争論。何もかも意見の対立で収拾つきそうもない。さびしく悲しい。母上もきわめて不機嫌。つひに来るとこまで来たやうな気がする。何より子等のことで心痛む。

4月7日(月)

早朝起きて、お花見弁当の仕度して、藤崎台の招魂社、宇土櫓附近を見る。どちらも満開。

4月8日(火)

島崎へ。

4月9日(水)

母上と2児、菊池へ、藤崎宮前へ見送る。志村ヤス氏宅、遠山先生宅。

4月11日(金)

島崎行。

4月12日(土)

みどりさんと菊池へ。夫も、遅れてやって来た。夜、夫と春千代は、高永へ泊る。

4月13日(日)

わらび摘み。夜、熊本へ。2児、村にのこる。

4月14日（月）

配給品とり。裁縫。

4月15日（火）

午すぎ、春千代たちかへる。水前寺方面へ。（夫、選挙のため村へ日帰り）

4月16日（水）

午前6時41分発で、高瀬へ。

4月17日（木）

島崎へ。

4月18日（金）

学休。

4月19日（土）

夫、菊池へ。

4月20日（日）

西里の征西寺に泊る。

4月21日（月）

高浜八郎氏宅。

4月22日（火）

高瀬、島崎1泊。

4 月 23 日（水）

11 時 14 分の列車に乗る。

4 月 25 日（金）

東京着、5:55。晶坊見えず。省電で立川へ直行。バスで 3 番まで乗すごし、やっと砂川校をさがし当てた。姉上³¹、甥、命、皆無事。晶坊も来る。

4 月 26 日（土）

姉さんと町会長、隣組長宅、村役場等へまはる。柳條よりの昨日の電報「ノブコスグカヘセ」に対し、姉さんの名で、返電を打つ。

4 月 27 日（日）

晶之介が来るかと待ったが遂に来らず、姉さんと、小川に洗たくに行く。

4 月 28 日（月） 雨

雨について役場へ、転入に伴う入学や転校の手続きに行く。午後から学校へ行くつもりだったが、都合がわるかったので中止、早めに、文緒をねかす。

4 月 29 日（火） 天長節

晶之介を心待ちしつつ、小川に洗濯に行く。富士が真っ白、春坊・文坊に見せてやる。午後は、裁縫。しきりに飛行機とぶ。うるさし。

4 月 30 日（木）

都会議員と村会議員の選挙日とあって、早朝から学校は賑かだ。春坊と文坊を伴れて、午前と午後と 2 回、校長先生をたづねたが留守なので、書類だけあづけてかへる。裁縫。

31 以前大連に住んでいた誠子の姉・つる枝は、このとき東京で暮らしていた。

5月1日（木）

晶坊の予定を聞くと、メーデーでだめだ。朝、学校に、2児をつれて行く。文坊ははじめての授業、春千代はクラスに紹介して貰っただけ、終日、お掃除、水汲、裁縫。熊本から、吉村さんの紹介で、和久田母子来訪。

5月3日（土） 新憲法施行記念日 雨

5月4日（日）

文緒を連れて東京へ。途中、西荻下車、双葉荘へ寄ったが、昇之介不在（行きがちがひ）。球場前、日比谷、神田方面を歩いてかへる。晶之介、立川にとまる。

5月5日（月） お節句

晶之介は、朝早く出勤。少しおくれて東京へ。厚生省へ行き、瀬戸事務官（児童局企画課）に面談。かへりに、関東配電に寄り、時事にまはって、5時半かへる。

5月6日（火）

午前中ハ、姉上と洗濯（小川へ行く）。午後、小布をはぎ合せて、軽装帯を縫ふ。文坊の失言（代用教員、云々）に、亜坊³² フンカイ。大へん困った。

5月7日（水） 午後・雨

早朝、東京へ。先づ双葉荘に寄り、吉祥寺に引きかへして、帝都線まはり目黒へ行く。目蒲線武蔵小山下車、降り出した小雨を冒して、月光町・川人氏を訪問。恒子氏は留守、母堂とゆっくり話しこみ、おひるを御馳走になる。雨は、大したことはないがナカナカ止まぬので、2時すぎおいとまして、かへりに双葉荘にとまる。晶之介、11時頃帰宅。

32 谷山亜生。

5月11日（日） 小雨

文坊は、亜ちゃんにつれられて井の頭から立教の礼拝にまはって、午すぎ帰宅。小雨にて、晶之介も見えず。

5月16日（金）

文緒等（4年以上）多摩川遠足。薄曇りで天気を懸念でしたが、午後から雲うすれ、あまりカンカン照りつけないで却ってよかった。

5月17日（木）

熊本（柳條等）へたよりす。

5月18日（日） 雨

晶之介の宿へ行く約束も、雨でお流れ。相当ひどく降る。午すぎやっと上がったが、これでは、とても出かけられず。晶坊も、とうとう出かけて来なかった。小百合ちゃん³³は、雨を衝いて立教の礼拝へ行く。

5月19日（月）

早朝、ごはんを食べず西荻の晶之介のアパートをたづねると、大橋さん³⁴は、やすんであた。一しよに、パンとハムを頂き、2人の出勤を送り出して、跡をきれいにし、晶之介の敷布団を入れる。明治神宮参拝。目黒に、川人さんを訪問、夕方かへる。春千代、今週は午前中授業。

5月20日（火）

昨日持ちかへった晶之介のカケブトンの皮などを洗ふ。ボロボロで大変。午後、アイロンかけ。

33 誠子の姉・つる枝の三女。立教女学院卒業。大映ニューフェイスに選ばれた。芸名は谷遥子。

34 晶之介の東大時代からの友人。

5月21日（水）

小林さんの風呂桶を借りて、水を汲む。休み休みほとんど1日かかった。夜半、米機の演習猛烈で、ナカナカねつかれず往生した。

5月22日（木）

午後、姉さんは買い物に、立川まで。急に発夕立模様。雷、本年の初夕立なり。亜ちゃん、カンナで手を切る。

5月23日（金）

大急ぎで掃除をすまして、薯の配給（特配、半ば闇、1貫20円也）をとりに、小林さんと小百合と3人で百姓家に行く。姉さんは畠作りで懸命。午すぎ、鷺さん来り、幸子と散歩。晶之介のカケブトンの仕立直して、夜おそくまで頑張る。月、眉の如し。

5月30日（金） ～ 6月5日（木）³⁵

6月8日（日）

晶坊が来るといふので、待ち乍らおせんたくする。午すぎやって来た。鷺さんもやって来た。姉さんと晶坊と3人で相談。一応熊本へ行くこととする。晶坊のみやげの牛肉とおからで、久しぶりにおいしい御馳走を拵へる。何もかも侘し。熊本へかへることがとても辛いけれど、姉さんもいよいよ厄介さうだし、住居も金もないのだし、仕方がない。とにかく一応熊本へかへってキチンと話をつけよう。だが、いやだ。ホントウに。

35 ハサミで切り取られている。

6月12日（木）

5時半頃家を出て西荻へ。双葉荘の玄関で、大橋さんに会ふ。晶之介は、起きたばかりのところ。一しょに食事して、晶坊は会社へ出かける。新宿で別れて、目黒（厚生省・瀬戸事務官）から明治学院（岡田、赤瀬川）、銀座松坂屋地下3階の満日（松本社長、中沢理事、鶴田、相沢要、島田（男）、木挽町の内外新聞（菊田、遠藤）、東本願寺内・引揚者全聯（小野崎夫人）等に会ふ。仕事のこと、住居のこと、いづれも見当ついてうれしい。かへりに西荻へ寄り、少し仕事をして、たくさんの荷物をかかへて、8時すぎ帰宅。米へイタイ来る。

6月13日（金）

午すぎまで、晶坊のセンタク。京ちゃん³⁶と小百合ちゃんは、ひる頃から、日比谷の音楽会へ行く。春坊は、選挙で級長になったといふ。この間頼んでおいた上衣、麦7升、サツマイモ1貫と替る（500円の見当）。これで数日はしのげよう。

6月20日（金）

晶之介と春坊・文坊と、4人で東京駅（八重洲口）へ急行券を買いに行き、日本橋から三越（室町本店附近）を見て、晶之介は荷物ということで先に立川へ。春坊・文坊をつれて交通博物館、上野の科学博物館へまはり、夕方、立川へかへる。

6月21日（土）

東京発（急行・阿蘇号）にて一路九州へ。心進まぬ旅。急行なので、車内はゆっくり。

36 つる枝の長女。

6月22日（日）

おひる頃、門司で乗かえて熊本へ向ふ。夕方上熊本着、京町へかへる。2ヶ月の間に、あたりはすっかり繁ってゐる。

6月27日（金） ～ 8月14日（木）³⁷

8月16日（土）

14:42分発で、上熊本を発つ。ひどい混雑だ。夜、門司に着き、23時の上野行臨時に乗ろうと思ったらだめ。大阪行き臨時に乗る。

8月17日（日） 和子さん1周忌

車中、ひる頃神戸着、下車。ホームで東京臨時行を待つことにして昼食などすます。風がよく通って涼しい。東京行もひどい混雑だ。

8月18日（月）

5:55、東京着。直ちに双葉荘へ行く。晶之介も大橋さんと食事のところ。晶坊、会社を休む。風呂でサッパリする。午後、東本願寺内の全聯（小野崎夫人）をたづね、住宅や就職の件を頼む。

8月19日（火）

大橋さんは、栃木・烏山のお宅へかへる。（休暇）

8月24日（日）

独りで立川へ行く。夕方、大橋さんが、かへって来た。

37 ハサミで切り取られている。

8月28日（木） 晶之介・出張

朝から、藤沢へ出かける。駅前の市場をさがしたら、川口さんの妹さんが出てゐた。川口さんところは、駅から約5、6分のところ。お母さんにも会ふ。トシ子さんもいろいろ心配してくれたが、なかなか住居が無さう。みやげもの頂く。

8月29日（金）

全聯へ。小野崎さんから、追浜の話をきく。神奈川生活相談所の高橋さんや、追浜の寮長さんに紹介状を貰って、追浜まで行く。駄目だった。

8月30日（土）

朝、全聯へ（2児同伴）。小野崎さんの話では、国分寺の元陸軍の某研究所あとが有望らしいので、住宅系の田中さんにきいて、国分寺へ行く。ひどい土砂降り。結局駄目、ガッカリ。

8月31日（日）

朝から築地の全聯の小野崎さんを訪問（今日はゐた）。家のことをくれぐれも頼んでかへる。夕方、春坊と立川へ行く。すっかり暮れて、月が明るい。立川では、京ちゃんは、富士見療養所へ行き、亜ちゃんは、山田君宅へ泊り、姉さんと小百合ちゃんは、ねてゐた。明日、春千代を、砂川中学にやりたいので、1泊させて貰う。

9月1日（月）

震災記念日だが、大戦災にやられた国民には、もう淡い記憶らしい。春坊を学校に送り出し、あとかた付けをすまして、配給ものとりに行く。薪を集め、野菜買出しに行き、3時すぎ西荻の宿にかへる。

9月2日（火）

晶之介は、会社を休んで片づけもの。8時頃から、東本願寺の全聯に、小野崎さんをたづねる。どうしたのか、まだ出勤してゐない。（9時頃出勤）

9月4日（木）

大橋さんと晶之介は、大串君³⁸のところへ引越すとて、朝からゴタゴタしてゐる。夜、お別れに、豚まん寿を作る。

9月5日（金）

朝から引越準備。独りで立川へ行き、食糧など仕入れて、3時頃双葉荘へかへり、2児を伴れて、有楽町ガード下の日の基宿泊所へ。

9月6日（土）

日の基宿泊所は、思ったより清潔で、居心地もよい。頭の上を省電が引きり無しに通るが、これも思ったより苦にならぬ。

9月15日（火） 台風

キャスリーン台風来る。夕方、雨の中を、晶之介来り、すぐかへる。雨、雨。省電一時不通にて、宿泊所満員。炊出しの手伝いをする。

9月16日（水）

昨日の台風にて、江戸川区あたり、大分出水の模様。

9月17日（木）

朝から、東本願寺の全聯へ行き、西大久保（元幼年学校食堂）の傷痍軍人寮ワキの手当人小屋を見る。午後、小野崎さんをたづね、牧野氏へ紹介たのむ。

38 晶之介の東大時代からの友人。

9月18日（金）

朝早くふろに行き、工業クラブに、牧野氏（援護会援護課長）訪問。かへりに都長官を訪ねたが、水害で忙しくてだめ。芝の三田寮、明治学院、武藤、宋氏も訪問。

9月19日（金）

世田谷母子寮を見に行き、大島寮母さんに会ふ。1室空いて居るといふので、寮長（不在）に幹旋方をたのみ、三鷹梁、荻窪梁等を見て、夕方立川に行き、押麦を少し貰ってかへる。

9月20日（土）

朝、全聯へ行き、世田谷母子寮へ。電話をかけたが、どうもよくきこえないので、午から出かける。寮長は、伊藤施設係長だった、（困ったもの）どうも望み薄でガッカリする。夕方、全聯に行く。水害ひどく、池先生の夫人等来泊（避難）、感じのよい方なり。金は無し。住居はきまらず、不安やる方なし。

9月21日（土）

ひどく疲れて、何をするのもユーウツなので、ブラブラとすごす。水、水、水害にて大変。2時頃、文坊に立川まで配給ものとりに入ってもらふ。夕方、晶坊来る。文緒、つひに帰らず。春坊はスネて、立川に行かず。

10月6日（月） 雨

10月7日（火）

大船撮影所に行く前に、社に寄り、桜庭氏より、旅費 2,00 貰ふ。大助かりだ。

10月10日（金） 雨

母上の祥月命日。雨に濡れ乍ら、11時過出社。「高峰三枝子に訊く」を出す。

11月3日（月） 明治節・誕生日

10時頃、大橋、大串両氏、11時すぎ、姉上、亜生来る。会食（赤飯栗入）。ハム、ソーセージ、白豆甘煮、うどん（海老入）汁等。1時頃から、多摩川へ行き、柿まん寿を食べ乍ら遊ぶ。大橋さんに、写真をとってもらふ。姉上より、白菊、紅菊、帯ベを、お祝に頂く。晶之介から御馳走してもらふ。姉さんは夕方かへる。

大橋、大串両氏と、夕食一しょにする。「豚すき焼」―停電―

11月20日（木） 午前中、冷雨

傘を2児に持たせたので、午すぎまで掃除、お裁縫。2時から出社。桜庭氏より500（お茶代）もらふ。かへりに、サンマ、林檎、ミカン等を買ってかへる。夜、梁全体の常会あり。

11月21日（金）

9時49分の電車に乗る。武蔵境下車。武井氏から、通勤着（自分用）を求め、東宝の両撮影所へ。新春映画の材料を貰ひに行く。